



身延小だより

身延町立身延小学校 TEL0556-62-0066
令和2年9月7日 編集: 校長 佐野三代司
学校の理念「すべての子どもに笑顔あふれる学校をつくる」

2学期が始まりました

～感染症対策をしながらも、充実した学校生活を～



23日間という例年にはない短い夏休みを終え、8月24日から2学期を始めました。朝、子どもたちが元気に登校してくる姿や全校集会で話す人の方向に体を向け集中して話を聴く姿、休み時間や放課後元気に外で遊んでいる姿など、学校にいつもの子どもたちの元気な姿が戻ってきたことをうれしく思っています。おかげさまで夏休み中、大きな事故などなく、142人の子どもたちが元気に2学期を迎えることができています。2学期の始業式では、学年代表の児童が「国語の予習と復習をしたいです。」「コロナやインフルエンザ、熱中症にも気をつけ、健康に過ごしていきたいです。」「運動会や修学旅行で下級生の良い手本となり、みんなをまとめていきたいです。」と新学期の抱負を元気に発表しました。



ご承知のように、コロナウイルス感染症予防には、まだまだ注意しなければなりません。感染症への対応が終わりの見えない中、対策をしっかり継続しながらも、学校教育ならではの学びや経験を大事にしながらい日々の教育活動が進められるよう努力していきます。

ご承知のように、コロナウイルス感染症予防には、まだまだ注意しなければなりません。感染症への対応が終わりの見えない中、対策をしっかり継続しながらも、学校教育ならではの学びや経験を大事にしながらい日々の教育活動が進められるよう努力していきます。

運動会は9月26日(土)、 元気に活動する子どもたちの姿をご覧ください



9月は運動会の時期でもあります。猛暑が続く中、熱中症への対策をしながら、今年はコロナ感染症対策のために、運動会の規模を縮小し、午前中のみの実施となっています(児童のみお弁当の準備をお願いします)。限られた時間の中で、感染症対策をしながら、できるだけ子どもたちが例年と同じような経験ができるよう、職員で工夫をしています。なお、今年に限ったお願い事項もいくつかあります。安心安全な中で行える運動会のため、とご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

偏見や差別のない社会や学校に

コロナ感染症対策に、力を入れ取り組んでいる毎日です。しかしながら、予期せず感染してしまう可能性がないとは言いきれません。感染のリスクを100%完全になくすことは、社会生活を送ったり、通勤通学をしたりしている以上、完全にはできないと言われていています。一方、新聞・ニュース等では、感染した人やその家族への心ない対応が起きている事例があるとされています。コロナを恐れる気持ちから起きていることであることは理解しつつも、偏見や差別は避けなければなりません。裏面に、文部科学省からの資料を載せました。感染症対策をしっかり講じつつも、偏見や差別のない社会や学校をめざしていきたいものです。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができておりますのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一